

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和7年(2025年)

2-3月号

(通巻 216号)

2024年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

トウキョウコシビロダンゴムシ
在来種のダンゴムシです。古くから
ある林に生息します。そこが昔から
林であり続けていることの証人です。

P1 ☀️ いきもの写真館
トウキョウコシビロダンゴムシ

P2 ☀️ 肌感覚の気象の記録
肌感覚の2月と3月
/ 3

P4 ☀️ 花を透明にして観る
ロウバイ

P5 ☀️ 長田谷津のとりたち
シジュウカラ

P6 ☀️ くすのきのあるバス通りから
スズメの集団

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
飼育展示の考え方

P7 ☀️ わたしの観察ノート
11～12月の記録

P8 ☀️ ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。





肌感覚の気象の記録



自然博物館では、日々の自然観察の記録を「自然観察週報」としてまとめ、web サイトで公開しています。自然観察週報には、週単位の気象の記録もあります。数値ではなく、自分たちが体験した気象を文字で書いた記録です。科学的とは言えませんが、生活実感には近い内容になっています。

肌感覚の2月

2月は、冬から春へと変わる月です。暦でも「節分」があり翌日の「立春」から春がスタートします。肌感覚も同様で、前半は冬の比重が高く、後半になると春の比重が高まります。

年によって違いはありますが、2月1週の記述はつぎのような感じで、まだ冬です。

列島各地で大雪となりましたが、関東では少なめでした。市川市内は畑などが白くなった程度でした。(2017年2月1週)

日本海側を中心に大雪となり、福井では1500台の車が立ち往生しました。市川でも立春からは極寒の毎日になりました。(2018年2月1週)

2月7日の朝は霧が発生し幻想的でしたが、交通に影響がでました。2月9日未明の雪は、あたりを雪景色にしました。(2019年2月1週)

10日の夜から11日未明にかけて、また雪でした。今回は湿った雪で、枝の雪が朝にはとけて雨のようでした。(2022年2月1週)

10日に南岸低気圧が関東南部を通過しました。多摩や埼玉では積雪がありましたが、市川市域ではわずかな降雪と大半は降雨でした。(2023年2月1週)

2月2週では、こんな感じです。

14日に関東地方で春一番が吹きました。気温が

上がり、翌日には急降下して、春と冬が行き来している感じでした。(2016年2月2週)

最高気温が5℃を下回る日がありました。晴れた日の陽射しは春めいていても、まだ冬本番でした。(2019年2月2週)

週はじめに大雪予想がでましたが、今回はほとんど雨でした。風景が、一段、春めいた週でした。(2022年2月2週)

こんなことも、ありました。

2月8日から9日未明にかけて記録的な大雪になりました。千葉市の積雪33cmは観測史上最深記録でした。14日夜から15日にかけても再び記録的な大雪となり、雪が積もり、その後は大雨になりました。いずれも交通機関は終日混乱しました。(2014年2月2週)

2月2回目の大雪は湿って重く、さらに台風並みの強風が吹いたので、各地で樹木が倒れ、枝が落ちました。長田谷津では25本の木が倒れ、19ヶ所で園路に倒木や枝の落下がありました。(2014年2月3週)



大雪の長田谷津

2月後半になると春の記述になります。

1日の最高気温が週のすべてで10℃を越えました。風の無い日は、春本番の陽気でした。(2019年2月3週)

気温や陽射しなど、春の足音が実感できる週でした。ウメやカワヅザクラなど、花木が楽しめるようになりました。(2023年2月3週)

最高気温が10℃にとどかなかったのは、1日しかありませんでした(船橋アメダス)。気分は、もう春です。(2020年2月4週)

2月は春一番が吹く月でもありますが、春一番の翌日は気圧配置の関係でほぼ確実に強い北風が吹きます。

2月23日に春一番が吹きました。その後、一転して冷たい北風となり、突風で、砂ぼこりが舞い漂う煙霧となりました。(2008年2月3週)

肌感覚の3月

3月の記述は春の喜びで溢れ、コブシや桜の開花が頻繁に登場します。

コブシが満開状態のうちにソメイヨシノが追いついて満開となり、そのほかの花木・野草も一気に咲きだしました。春は早まりましたが、一方で満開の桜に雪が降りました。(2001年3月4週)

コブシが残るうちにソメイヨシノが満開となり、ヤマザクラ、ナシと続いて見頃を迎えました。すでにツツジや洋種のアヤメ類が咲いている場所もあります。生物季節が前倒しです。(2002年3月4週)

週初めに最高気温が20度を超す日が続きました。寒い冬が一転してポカポカ陽気になり、ソメイヨシノが一気に開花して満開になりました。(2013年3月3週)

東京のソメイヨシノが22日に満開になったと発表されました。平年より12日早いそうです。前倒しの春が続きました。(2020年3月4週)

こんな記述もあります。

4日には、20℃近くまで気温があがり、動物園ではシャツ1枚で歩くお客さんが少なからずいました。(2007年3月1週)

春が全開の週でした。新型コロナウイルスが収束していないので、春を楽しむのも気づかいながら、になりました。(2021年3月4週)

暖くなり、上着がいらないどころか、半袖で走り回っている子どもたちがいました。雨も降ったので、風景にみずみずしさが加わりました。(2023年3月2週)

うきうきする3月は災害とは無縁な印象ですが、油断は禁物です。

10日は強い北風が吹き、土ぼこりが舞い上げられて一面煙ってしまいました。「煙霧」という現象で、2008年にも春一番から風向きが変わって同じ現象が起きました。週半ばには強い南風の影響で気温が上がり、一気に春めきました。(2013年3月2週)

※ 煙霧は交通機関に影響を及ぼします。

週末に激しく雨が降りました。市内では国分川・春木川で氾濫注意水位を超えたため流域に避難勧告が出され、北東部では土砂災害警戒情報が出されました。(2021年3月1週)

7日は朝からの雨がすぐ雪に変わり、畑や木々があっという間に雪化粧しました。11日に「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」が発生し大災害になりました。(2011年3月1週)

先週の地震と津波に加えて原発事故も起こり、落ち着かない週でした。一時的に冬型になって北風が吹きました。被災地には厳しい気象条件となりました。(2011年3月2週)

花を透明にして観る*****

ロウバイ

花を薬品で処理して透明にしました。一般的な押し葉標本だと花も平らになってしまいますが、この方法だと立体を保ったまま内部構造を見ることができます。印刷物にすることで結局、平面になってしまいますが、実物をそのまま見れば立体的に花のつくりを理解することができます。



ロウバイの花（写真は、花の内部まで黄色いソシンロウバイ）

- ・ロウバイの花にはたくさんの花弁（花びら）がある。
- ・花の外側、枝に近い方は小さくて萼（がく）のようだが、内側に向けて連続的に大きくなる。
- ・もともと萼と花弁に大きな違いはなく、二重に並んだ外側を萼、内側を花弁と呼ぶ。
- ・ロウバイのような場合、呼び方に困るので、萼と花弁を区別せず花被片（かひへん）と呼ぶ。
- ・写真では、花の中央に6本の雄しべが見える。
- ・雌しべは、雄しべよりも先に既に活動を終わらせ、雄しべの下で小さくなっている。

長田谷津のとりたち

自然博物館で行っている鳥類調査の記録から
一押しのとりにちをエピソードと共に紹介します。

シジュウカラ

シジュウカラは日本全国で見ることができます。山林から庭先まで、さまざまな環境に生息している身近な鳥です。長田谷津でも一年中見ることができます。繁殖もしており、春から夏にかけては巣立ち雛を観察できます。シジュウカラには混群(こんぐん)と呼ばれる、生態が知られています。混群は、別の種類の鳥が群を作り行動します。猛禽類などの天敵の早期発見や警戒などのメリットがあると考えられています。長田谷津で混群を形成するメンバーはシジュウカラ、エナガ、メジロ、ヤマガラ、コゲラで、年によって冬期にキクイタダキやヒガラが加わります。また渡りの時期にはムシクイの仲間やサンコウチョウが加わっていることもあります。



白い頬と、喉から腹にかけての
ネクタイのような黒い帯が特徴
(2020年3月24日 長田谷津)

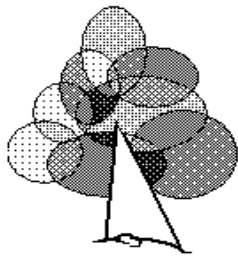
シジュウカラの巣が欲しい！

23-24シーズンの冬から、博物館で展示するシジュウカラの巣の標本を採集しようと、計画を立てました。作戦はシンプルです。①巣を作る場所を選ぶ ②冬に、巣箱を設置 ③春にシジュウカラが繁殖 ④巣立ち後に巣箱ごと採集 ⑤めでたく展示

良い時期に納得のいく場所に巣箱を仕掛けて春を待ちました。しかし…まったく使ってくれません！3つ仕掛けたのですがさっぱりです。気が付けば4月、5月、6月と季節は流れ、今年はダメかなと諦めていたところ、7月に入りようやく使ってくれました。その後、何度か繁殖する可能性を考えて、12月に回収しました。長田谷津のような巣を作ることができる樹洞や穴が沢山ある場所では、わざわざ好んで、巣箱を使わないのかもしれませんが。採集した巣箱は、中が見えるよう加工して今後展示室に出す予定です。



採集した巣箱の中身
コケ類や獣毛、綿(人工的な繊維と思われる)
など、様々なものを巣材として使っている
(2024.12.17 採集 長田谷津)



スズメの集団

1月17日、本八幡駅前のビルの上で、イソヒヨドリが鳴いていたそうです。冬でも市川市で暮らしているのでしょうか。19日、ロウバイの花が咲きました。28日、自宅の前の電柱の下に、鳥の糞が、たくさん落ちていて、くぼみのある白い丸いものもありました。自然博の方に見てもらおうと「センダンの種です。実の部分は消化され、糞が雨で洗われて、種だけになったものです」「ヒヨドリが食べたのでしょうか」と。八幡小学校や中山小学校、北方調整池にセンダンはあるそうです。31日に紅梅が咲きました。ハクモクレンの蕾がたくさんついているのは、

「花や実の表・裏年」なのでしょうか。あちこちの庭先のモミジの葉が、枯れたまま枝に残っています。去年の気候のせいなのでしょう。

スズメがこんもりとした庭木のなかで、「ぴちぴちぴち」と集団で話し合っています。そっと様子を見ようと立ち止まると、ぴったり鳴きやんでしまいます。一面に、枯れたエノコログサの空き地にも、スズメがいます。さざなみの様に、ついばんでは地面を移動します。他の通行人が気にせず近づくと、「わー」と音がするほどたくさんのスズメが飛び去りました。

(M. M.)

No.60

展示室 飼育生物の話題

飼育展示の考え方

書くこともなくなってきたので、今回で最後です。当館の飼育展示はプラスチックの飼育ケースを机の上に並べ、デスクライトで照らすスタイルが基本です。大型の水槽は数台のみで、60cm水槽でさえ、大きい方です。

この展示方法の意図は、来館者の多くを占める幼児～小学校低学年の子どもたちの距離感に合わせることです。その年代の子どもたちは、自分の手が届く距離のものに関心が向いています。動物園の獣舎や水族館の水槽では大きすぎるのです。

手を伸ばせば生き物に触れる距離なので、ふたのない丸水槽で飼っているウーパールーパーやおたまじゃくしは、みんな触りたくてうずうずしています（別にヤドカリに触れるコーナーがあります）。それくらいの近さで、目の前に生き物がいるわけです。家で飼えばあたりまえの距離ですが、近年は家庭での飼育は条件がそろわず、むずかしくなっています。その分、展示室で楽しんでほしいです。





◆長田谷津より

- ・ナラ枯れで明るくなった斜面裾に、今年はアカネがよく生えました。低木に絡みついて棚状になったところは、よく実がついていました(11/6)。

金子謙一(自然博物館)

- ・シロダモの花が満開で、昆虫がたくさん集まっていました(11/29)。ヒラタアブの仲間やハナアブの仲間がよく目につき、ニホンミツバチやクロスズメバチの仲間も来ていました。

稲村優一(自然博物館)

- ・キッコウハグマが、開放花を咲かせていました(12/2)。関心を持って見てきた人たちの念願です。閉鎖花ばかりだったので、白い小さな花が、よりいとおしく感じられました。
- ・おだやかな日差しを受けて、ムラサキシジミが翅を広げて日光浴をしていました(12/3)。コブシやエノキの黄色い葉の上で広げると、輝く紫色がいっそうきれいに見えました。
- ・暖かい日が続き、この日はツマグロヒョウモンが見られました(12/4)。

以上 金子謙一

- ・毎年、ムラサキツバメが越冬しているアカガシに今年もやってきました(12/20)。重なっていて、よくわかりませんでしたが、少なくとも7個体は確認できました。それに加えて、ムサキシジミも1個体混ざっていました。
- ・ホトケドジョウ保全のために作った小さな池に、カワセミが来ていました(12/24)。思わず、ホトケドジョウは食べないで、と願ってしまいました。

以上 稲村優一

◆大町動物園内より

- ・夏にきれいな花を咲かせたセンニンソウに、種ができました(11/28)。名前の由来と考えられているフサフサの白くて長い毛は、確かに仙人のひげに見えました。
- ・園内に仕掛けていたシジュウカラ用の巣箱を回収すると、巣箱と仕掛けていたスギの樹皮の間でヤニサシガメの幼虫が集団で越冬していました(12/17)。腹の飴色がとても綺麗でした。

以上 稲村優一

- ・休園中のザリガニ釣り場にカワセミが来ていました(12/30)。他に人影は無く、リラックスした感じでした。

◆本行徳より

- ・行徳街道沿いは、神社の境内や公園にイチョウがあります。11月末というのに、葉っぱにはまだ緑色が残っていました(11/26)。

◆江戸川放水路より

- ・渡りの時期ではないので、シギやチドリは見当たりません。イソシギは冬でも江戸川放水路で見られるシギで、水際を歩いて餌をつついていました(12/6)。
- ・江戸川放水路のいちばん東京湾側の護岸(テトラポッド)でイソヒヨドリを見ました(12/12)。最近では市街地でも見かけますが、波の見える場所だと名前どおりでいいですね。

以上 金子謙一

暖かい秋が11月半ばまで続き、モミジの紅葉は遅れぎみでした。12月に入ると冷え込みが強まり、雨はほとんど降らず空気も地面もカラカラでした。

ホームページをご利用ください



自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入力していただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。



ホームページの内容

- ・ご利用案内
- ・展示紹介、詳しい解説
- ・行事案内
- ・自然観察の記録、オリジナル動画
- ・博物館だより、出版物のご案内



＜行事のご案内＞

長田谷津は、
大町公園の自然観察園のもともとの呼び名です。

○長田谷津散策会

（申し込み不要・荒天中止）

季節の風景や動植物を楽しみながら、
ゆっくりと散策します。

集合：動物園券売所前 午前10時

解散：集合と同じ場所で 午前11時30分

○湿地の環境整備を

お手伝いしてくだいせんか

（要問合せ・荒天中止）

学芸員と一緒に環境整備作業を行います。

たとえば…湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、
水路の整備、など

集合：観賞植物園 午前10時

解散：集合と同じ場所で 正午

初参加の方は

・・・お電話で博物館までお問合せください。
湿地の中に入る作業もありますので作業内容や
身支度などについてご説明します。

	長田谷津散策会	湿地環境整備
3月	16日 日曜日	23日 日曜日
4月	19日 土曜日	27日 日曜日
5月	18日 日曜日	25日 日曜日
6月	14日 土曜日	29日 日曜日
7月	13日 日曜日	おやすみ
8月	9日 土曜日	おやすみ
9月	21日 日曜日	28日 日曜日
10月	18日 土曜日	26日 日曜日
11月	16日 日曜日	23日 日曜日
12月	13日 土曜日	21日 日曜日
1月	18日 日曜日	25日 日曜日
2月	21日 土曜日	おやすみ
3月	22日 日曜日	1日 日曜日 29日 日曜日

第37巻 第6号（通巻第216号）

令和7年2月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館

（市川市教育委員会生涯学習部）

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477